

長良通運、時間給導入

中田商事がアドバイス

毎年ペアで給与水準↑

男社長、桑名市)の水谷かをり・取締役管理本部長の訪問を受けた。長良通運では時間給制度の導入を検討中で、中田商事の事例を聞いて参考にしたい、という水谷氏のリクエストに中田社長が応じた。

中田商事は2010年10月に時間給制度を導入。中

田商事の藤森純子室長は画像を使いながら、時間外労働の賃金割増率アップや上限規制の強化を見越し、労働時間管理と給与計算を連動させる目的だつたと説明した。水谷氏は「歩合給廢止で社員から不満は出なかつたか。一方で収入を増やすため、わざと長い時間働く人もいるのでは」と質問。

これに対し、中田氏は「従業員の給与シミュレーションを行うと方程式が見えてくる。絶対評価と相対評価を擦り合わせた人事考

課も加味し、一人ひとりが納得する時間給を個々に設定した。実際に導入してみると、長時間ではなく効率的に参考にしたい、といふことだ。時間給は毎年ベースアップを行い、給与水準は以前より上がっている」と答えた。

また、給与シミュレーションのデータを作成した藤

森氏は「表計算ソフトに手打ちすると時間が掛かるが、デジタルタコグラフのデータを活用すれば作業が格段に効率的になる。導入に伴う事務負担を軽減することも大事」とアドバイス。

水谷氏は「デジタコの有効活用やDX(デジタルトランスマーチン)化は我が社の課題だが、時間給の方が給与計算が楽になることが良くなかった。労働時間短縮につながるので、2、3年掛けて丁寧に実現させたい」と力を込めた。(星野誠)

【三重】中田商事(中田純一社長、三重県伊賀市)
は4日、長良通運(藤村幹



(左から) 中田
商事の中田社
長、藤森室長、
長良通運の水谷
取締役